

自国の歴史に関心持って

外務省職員が名東高で講演

文化を通じた外交への理解を深めてもらおうと、外務省から派遣された近藤未佳さん(三〇)が十四日、名東区の名東高校で講演。国際英語科一、二年生約八十人を前に「自分の国の歴史、

文化、社会に関心を持つて」と呼び掛けた。近藤さんは昭和区生まれ。大学時代にドイツへ留学したり映画祭運営に携わったりし、国際文化交流に興味を持った。大学院修了後に外務省所管の国際交流基金に就職し、二〇二〇年から同省に外向。現在は文化交流・海外広報課主査を務める。

「パブリック・ディプロマシー(開かれた外交)、つまり外国に日本の多様な魅力をアピールすることが大切」と強調。具体例として大須で〇三年から開かれている「世界コスプレサミット」を挙げ「外務省も実行委員会に入ってサポートしている」と伝えた。講演は、進路選択の参考にもなればと、同省が一九九五年から全国で実施している「高校講座」。九月からカナダへ留学予定の二年下野まといさん(一七)は「漠然としていた将来のビジョンが明確になった」と聞き入っていた。(小松原康平)



文化を通じた外交について話す近藤さん(三〇)名東区の名東高で

「パブリック・ディプロマシー(開かれた外交)、つまり外国に日本の多様な魅力をアピールすることが大切」と強調。具体例として大須で〇三年から開かれている「世界コスプレサミット」を挙げ「外務省も実